

光といのち

第139号
2023年1月1日発行

発行所
真宗大谷派勝善寺
〒299-2214

千葉県南房総市二部1344
電話 0470-57-2657
FAX 0470-57-2290

メール info@syozenji.or.jp
URL <http://syozenji.or.jp/>
住職 釋孝昌(井上孝昌)

宗教とは、
生涯を託して悔ゆることのない、
ただ一句の言葉との
出会いである。

仏教を習う家

謹賀新年

聞法求道の一年が始まりました。仏法を聴聞し、確かな人生を歩みましょう。 寺族一同

題字下の言葉は、どどみ 真 しん 先生から当寺の報恩講でいただきました。

「宗教」というと、仏教やキリスト教・イスラム教などを思い浮かべますが、それは明治時代にレリジョン (Religion) の訳語として「宗教」が用いられるようになってからのことです。それ以前は、仏教の要諦つまり仏教の要点を表示する文字や言葉を「宗教」と呼んでいました。世界の三大宗教と括りますが、縁起の法に立つ仏教と絶対神を立てるキリスト教やイスラム教とは、大きな違いがあります。

さて、あらためて題字下を読むと、「宗教(仏教の要諦)は、生涯を託して悔いのない一句の言葉との出会いである」となります。

熱心に仏法を聴聞した伯父の
とっさに出た一言にすくわれ、
それが「生涯を託して悔いのな

い一句の言葉」となった女性のお話を見開きページに掲載しました。

仏法が身についた方の生きる姿勢は、世間の常識に振り回され迷い惑うている私たちを、ハッと目覚まします。

ぜひ読んでください。

ところで私たちは、お正月に「今年は、よい年になりますように」と無病息災、家内安全、商売繁盛などを祈りますよね。

それが仏法を聴聞すると、その祈りが迷いの姿だったと知らされる。また仏教は、倫理道徳でも癒しや人格の陶冶でもありません。びっくり仰天ですね。

仏教は、縁起の法。つまり今ある自分の事実を知らせる法です。だから常識に立つ私たちに聞き難い。されど確かな教えであります。

1月2日(月)10時〜11時30分

しゅ しょう え

修正会

YouTubeで参詣する方は、「修正会に参加します。」とメールしてください。



「実語を耳底に胎す」という講題のお話しをいただきました。

これは親鸞聖人の曾孫覚如上人が、聖人三十三回忌に著された『報恩講私記』にある言葉です。親鸞聖人亡き後も聖人の言葉は万人の耳の底に刻まれ「実語（真実の言葉）」となり確かな人生を歩ませていると。

ちなみにこの法要が、私たちがお勤めした報恩講の興りということでした。

先生は、「実語」は親鸞聖人の言葉に限らない。「生涯を託して悔いのない一句の言葉」が、その人にとっての「実語」であると仰いました。

その実例として挙げたお話しが、以下の文章です。

おお、婆ちゃんな、仏さんになって
よろこんでおいでるがや。

私は仏道の師がご晩年に石川県に暮らしておられたので、加賀の同行方と今でもご縁があるのです。その中のお一人、石川県小松市に暮らす山本さんという方から今年の春に電話があったのです。八十年代半ばで熱心に仏法聴聞されている方で、加賀友禅を扱うご商売をされています。

ここ数年は新型コロナの出現で、北陸に

行くご縁も減っていますから、久しぶりのご連絡だったのです。話を聞くと、「北関東に暮らす自分の妹が亡くなって葬儀も済んだんや。妹のお連れ合いは、いわゆる無宗教で手次寺はないのです。お墓は近くの霊園に用意してあるそうなんや。けど妹は石川県小松の出身。嫁いではナンマンガブツのご縁は遠のいたけど、山本の家は京都のご本山の親鸞聖人のもとに分骨することになったんです。その伝統を妹の娘、二人の姪に言ったら「おじさんがそう言われるのならば、そうします」となった。ところが手次ぎ寺が必要なので、悪いけれども、百々海さんのところで手続きしてもらえないだろうか」ということでした。「もちろん手続きしますよ」と返事をしたところ、「姪は二人とも東京でご主人と子どもと暮らしているから、直接連絡させます。会ってやってください」となりました。

ほどなくして、その姪の方から連絡が入り、まずは挨拶に、と来寺されました。真宗の法名を名告って京都に分骨を、ということでしたから、日を改めて本堂で法要を勤め、手続きをしたのです。

ですが私には気になっていることがあったのです。確かに山本家は浄土真宗の教えを大事にしている家とはいえ、亡くなった妹さんのお連れ合いはご健在で、無宗教なのです。故人の娘さんである二人の姪も、当然ながら仏教やお寺についてもまったく

知らないようでした。手次寺がないことは、現代の首都圏では決して珍しくないことですが、そのような環境で生活されてきたご遺族がどうして京都の本山に分骨しようと思われたのか、ご親族からの申し出とはいえ、見方を変えれば、余計な口出しと反発されてもおかしくないことですよね。ですから何故・・・？という疑問があったのです。

来寺された折に故人の娘さんにお尋ねすると、伯父である山本さんの勧めに従おうと決めたいきさつを次のように語ってくれたのです。

「実は三十年ほど前に、父方の祖母が亡くなったのです。私はまだ二十代で、東京の会社に勤めて一人暮らしをしていたのですが、お通夜に間に合うように会社を早退して式場に向かったのです。コロナ下の近頃と違って、百人、百五十人が弔問に来られる大きな葬儀だったのですが、お通夜が始まるギリギリの時間に、大勢が着席している式場に小走りが入っていったら、式場に入った瞬間に手にかけていた数珠の紐が切れたのです。小走りだったこともあり、数珠玉がカラカラと音を立ててホールのあちこちに散らばって。お通夜が始まる前のシーンとした式場ですから、大勢の人が一斉に私の方を向いて、注目されてしまった・・・。周りも私も「不吉なことが起こった」という空気になって、恥ずかしさとお通夜を台無しにしてしまった怖さで、私はどう

していいかわからなくなったのです・・・」
といわれるのです。

確かに数珠が切れることを不吉なことと捉えるのがむしろ普通でしょう。ですが数珠の紐は、切れる時には切れるのです。切れる縁があれば切れる。ただそれだけのことですが、私たちは事実を事実のままに見られないのです。それが迷いです。靈魂を想起して結びつけ、縁起が悪いと言い出すのです。そういう心が瞬間的に動くのですね。しかもそれが社会常識にまだなっていますから、根は深いのです。仏法を聞くと、どこまでも深い迷妄性を体質としている自分が、あきらかになるのですよね。

ともかくその方は、恥ずかしさと大事なおばあちゃんのお通夜で大失敗したと、半泣きで、転がったお念珠の玉を拾い始めたのだそうです。

そうしたらその小松の伯父さんが場の空気を察して、サツと立ち上がって、大声で「おお、婆ちゃんな、仏さんになってよろこんでおいでるがや」と。そうしたら、空気が一変し、場内のざわつきも収まり、自分も落ち着いてお参りすることができたというのです。そして、その一件をご家族は見ていましたから、「小松の伯父は、すごい」となったのだそうです。

小松の山本さんは仏法聴聞される中で、事実を事実のままに見る感覚、見識をいただいていたのですね。私は、生活の場にお

ける真宗門徒の生きる姿として、ささいなことのようにだけ、実はとても深い出来事として教えられました。

その時の伯父さんの態度が、言葉がご家族に深く刻まれていて、それこそ耳の底に留まっていた、今回も「仏教に精通している伯父の言うことだから、京都に分骨しよう」となったというのです。私たちは、お通夜の席でそういう場面に遭遇したら、どういう態度をとるのでしょうか。日ごろの仏法聴聞がホンモノかどうか、生活の現場で試されますね。

話を戻しますが、宗教に関する報道が続く中で、宗教とは一体何なのか。仏法は、靈魂に左右され、呪縛されている私たちの生き方の迷妄性を破る智慧でしょう。ある先達が「宗教とは、生涯を托して悔ゆることのないただ一句の言葉との出会いである」と言われていますが、私を呼び覚ます言葉との出会いでしょう。宗教というと、神秘や靈魂の世界をイメージしたり、あるいは感謝の気持ちになること、癒やしに持ち替えますが、そんなことではないのですね。親鸞聖人は「信心の智慧」とおっしゃいますが、一瞬ひらめく智慧、見識としてはたらくものなのですね。

※「婆ちゃんな」は「婆ちゃんは」、「おいでるがや」は「おられるよ」の加賀弁です。

報恩講を支えた世話人と有志 (五十音順 敬称略)

報恩講

仏具磨き

設営

運営

青木美由紀 石井俊幸 大胡登美子 大胡睦恵 狩野昌也 黒川敦子 川名信之 川名ふじ子 鈴木正一郎 田中昭一 田村晋一 富澤眞知子 高梨政男 中川正博 中川弥生 中山郁夫 西尾のぶ子 能重隆 堀海榮子 吉田誠 渡邊秀子 坊守

青木敏夫 明石主司 明石義久 足達崇 川名せつ子 川名利幸 川名喜昭 黒川敦子 重田和夫 鈴木正一郎 高梨和夫 高梨維夫 田村晋一 田村徹夫 中山明夫 西山隆昭 西山照子 渡邊秀子

朝倉和利 足達崇 池田千代枝 川名喜昭 黒川敦子 久保田守 鈴木正一郎 田中昭一 田中誠 田村晋一 富永昇一 能重初雄 長谷川吉枝 姫松実 福原広美 前田瑞枝 三堀清 吉田誠 渡邊秀子

コロナ感染症が続く中、百名近くの方々にお参りがありました。

また、百七十五名の方々から八十六万二千円の御懇志が寄せられました。残金六十二万四千二百八十三円は、宗祖親鸞聖人御誕生八百年立教開宗八百年勝善寺慶讃法要記念事業に充てさせていただきます。

また仏花や供物米もお寄せていただき仏さまが荘厳されました。

当番の鋸南地区の方々、世話人や有志の方々などのお力で、門徒の主催する報恩講が勤まりました。

この大事な営みを子々孫々に伝えてまいりましょう。

11月14日(月)

仏具のお磨き



行事予定
修正会 ユーチューブ
1月2日(月) 10時～11時30分
八日講十日講

1月8日(日) 9時～11時

親鸞教室 ブーム

1月17日(火) 13時～16時

仏教を聞き語り合う会 ブーム

2月12日(日) 14時～16時

春彼岸会 ユーチューブ

3月21日(火) 10時～11時30分

宗祖親鸞聖人御生誕八百年立教開宗八百年慶讃法要団体参

拝旅行

3月30日(木)～4月1日(土)

仏教を聞き語り合う会 ブーム

兼花まつり

4月9日(日) 14時～16時

親鸞教室 ブーム

4月14日(金) 13時～16時

仏教を聞き語り合う会 ブーム

5月7日(日) 14時～16時

親鸞教室 ブーム

5月18日(木) 13時～16時

中佐久間講

5月19日(金) 14時～16時

八日講十日講

6月8日(木) 9時～11時

奉仕作業

6月11日(日) 8時30分～

勝善寺聞法会

6月未定 14時～16時